

令和7年度 学校評価自己評価表:計画表 廿日市市立佐伯中学校

- 校訓 「自律」
- 学校教育目標 「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」
- 学校経営目標 知・徳・体の基礎・基本を土台に、夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒を育成することで、地域から信頼される学校づくりを推進する。
- 学校経営方針 (1)「生きる力」を育む佐伯中(2)誰一人取り残さない佐伯中(3)社会に開かれた佐伯中(4)信頼される佐伯中
- 経営目標・評価項目・評価・達成状況 (◎は重点目標)

評価計画						自己評価						学校関係者評価
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	担当	中間8月	進捗状況分析・今後の取組(8月)	最終2月	達成度	評価5段階	結果・課題の分析・改善方法	コメント
【知】 確かな学力定着の推進	◎基礎・基本の確実な定着	○【令和7年度研究主題】 「主体的に学び続ける生徒の育成～基礎学力の定着と振り返りの充実を通して～」に基づき、次のことに重点的に取り組む。 ・授業の中における学び合いを促進させる指導法の工夫改善〔ICT機器(chromebook)の活用〕 ・家庭学習の習慣化を図る取組の工夫 〔さいきっ子カード〕 〔毎日トレノート等の活用〕	○定期試験における基礎学力〔知識〕の正答率60％以上の生徒の割合【5教科対象】	A…70％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	教務部	C 59.6%	学年別では、60％を超えている教科が最も多いのが2年生(4教科)で、以下3年生(3教科)、1年生(2教科)と続いている。このことからわかるように、1年生の学習に課題が大きい。小学校で学習すべき基本的なことが定着していない(九九や漢字など)ので、チャレンジタイムを使って、基礎的な学習に取り組ませたい。	52.9%	76%	C	5教科の平均は、1年生51.6％、2年生57.2％、3年生49.8％と、3年生の課題が最も大きい。全体的に、2学期は学習時間が減ったり、学習に対する意欲が低下する傾向にあるため、このような結果になったと考えられる。1年生は、現在チャレンジタイムで既習事項の復習に取り組んでいる。	・中学校における学力定着には家庭学習の習慣化が不可欠である。小学校とも緊密に連携し、学習意欲を向上させるとともに、家庭学習へと円滑につなげるための実効性のある取組を推進されたい。
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月〕の項目「授業で友達の意見をしっかりと聞き、自分の考えに生かしている」と答える生徒の割合	A…80％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	教務部	B 69.4%	昨年度、「授業で友達の意見を聞いたり自分の意見を言うことができる。」としていたが、今年度は「自分の考えに生かす」という文言を加えたため、昨年度後期に比べ10ポイント減となっている。これからは、他者の意見と自分の意見の相違点を見出し、新たな考えを形成する力が求められるため、授業でどのような活動を仕組んだらよいかという研修を行っていきたい。	92.3%	115%	A	校内研修等でいろいろな先生方の授業提案を参観することで、グループで協力して解決する課題設定のヒントを得る機会となった。多くの教員が取り組んだこともあり、前回よりも大幅にアップした。	
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月〕の項目「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と答える生徒の割合	A…85％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	教務部	B 80.2%	総合的な学習の時間において、各学年で課題解決型の授業を展開しているため、このような結果になったと考えられるが、すべての授業においてこの結果が当てはまるとは限らない。総合的な学習の時間に意欲的にやっていることを、普段の授業の中でも生かせるよう、研究授業の中で、上記の項目と合わせて学校全体として考えていく。	85.5%	101%	A	各学年、自分の立てた課題の解決(主に地域学習)に向けて活動することで、意欲的に授業に参加できていたように思う。授業においての意欲が、授業以外の場面で地域に向けられるような単元をこれからもし組んでいきたい。	
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月〕の項目「授業以外の時間を使って自分から進んで学習した時間1時間以上と答える生徒の割合	A…70％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	教務部	B 66.1%	これまで60％を超えたことがなかったが、今年度は60％を大きく上回っている。毎トレノートを家庭で行うということ徹底したことも大きく影響していると考えられる。しかし、「提出するためのノート」となっている生徒も一部いるので、「自分に必要な学習を行うノート」となるよう、委員会等を活用しながら、内容を充実させる取組を行った。	58.1%	83%	C	1年生58.3％、2年生40.0％で、いずれも12～3ポイント減。2年生の学習時間の課題が大きい。定着度診断問題では2年生の平均が最もよいので、学力の定着に大きく影響していないと考えられるが、もうすぐ3年生になるので、毎トレノート以外の家庭学習の取組も考えなければいけない。	
【徳】 育豊かな心の	自他のよさを認め合う「自己肯定感」「自己有用感」の育成 《市教委の重点施策に基づく重点目標》 《小中連携による共通目標》	○生徒指導の充実を図るため、次のことに重点的に取り組む。 ・年2回のアセスの実施と分析、学級経営への反映 ・学校行事や生徒会活動等を中心に、「達成感・成就感を味わうことができる活動」の場の設定と充実 ・生徒会活動の充実(みそあじの進化・発展) ・感謝と貢献する気持ちの醸成と実行	○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「自分には、よいところがある」の肯定的評価の割合	A…80％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	生徒指導部	B 77.7%	1年生62.5％、2年生90.5％(経年比13.8↑)、3年生76.6％(経年比6.7％↑)↓全体77.7％(前年比4.3％↑)↓ 学年行事や学校行事、生徒会行事の頑張りをタイムリーに評価する。	80.3%	100%	A	1年生75.0％(前期比12.5％↑)、2年生80.0％(前期比10.5％↓)、3年生83.3％(前期比6.7％↑)↓。1・3年生は前期よりも肯定的回答が増えた。2年生は前期より下がったが、80％以上は肯定的回答をしている。一人一人に責任感を持たせる活動をしている。	・不登校傾向にある生徒への対応には喫緊の課題である。在学中の解消に向けた努力はもとより、進路未決定のまま卒業した生徒に対しても、地域と連携した継続的な支援体制を構築し、再チャレンジを支える環境づくりが必要である。
			○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「自分のやったことで人から喜んでもらったことがある」の肯定的評価の割合	A…80％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	生徒指導部	A 90.1%	1年生87.5％、2年生85.7％(経年比2％↑)、3年生95.7％(経年比5.2％↑)、全体90.1％(前年比0.1％↑)↓ 学校生活の中で互いに「ありがとう」カード贈り合う活動や、生徒の思いを載せた通信等の発行により、生徒間の人間関係が良く、自己有用感が高いことがわかった。この活動を続けていく。	88.0%	110%	A	1年生79.2％(前期比8.3％↓)、2年生88.9％(前期比3.2％↑)、3年生91.7％(前期比4.1％↑)↓前期より肯定的回答が下がったが、それでも88％の生徒は肯定的回答をしている。学校行事や生徒会活動だけでなく、日々の学級活動も生徒の意欲を掻き立てるように工夫していく。	
【体】 健やかな体の	不登校生徒の減少 《市教委の重点施策に基づく重点目標》	○学校評価に係る生徒アンケート〔7月・12月実施〕項目「みそあじを実行している」の肯定的評価の割合	A…80％以上 B…60％以上 C…40％以上 D…40％未満	生徒指導部	生徒指導部	A 88.5%	身だしなみを整えている91％、掃除を頑張っている91％、あいさつを頑張っている88％、時間を守って生活している92％。「みそあじ」を意識して生活している」と回答する生徒が多い。しかし、教員から見ると、生徒の自己評価が高いと感じる項目もある。生徒会を中心に「みそあじ」の各視点を明確にして、進化させる。	90.3%	112%	A	身だしなみを整えている91％、掃除を頑張っている91％、あいさつを頑張っている88％、時間を守って生活している91％。「みそあじ」を意識して生活している」と回答する生徒が多い。特に、あいさつができていると回答した生徒が増えた。『地域の人にも元気づけ挨拶しているから』『自分から進んであいさつできているから』と回答している。	・学校の素晴らしい取組が地域に十分浸透していない現状がある。地域学校協議会(地域学校協働本部)の在り方を再考し、情報発信を強化することで、学校と地域の距離を一層縮める一助となりたい。
			○不登校生徒数を30％減少させる。 〔令和6年度19人⇒13人以下に〕	A…13人以下 B…14人以下 C…15人以下 D…16人以上	生徒指導部	A 7人	不登校生徒数、1年生1名、2年生1名、3年生5名 長期欠席生徒、2年生1名(起立性調節障害) 欠席20日～29日生徒、1年生0人、2年生2人、3年生2人 欠席10日～19日生徒、1年生0人、2年生1人、3年生6人 3年生に不登校傾向の生徒が多いが、入試を意識して、2年時より頑張ろうとしている姿が見られる。	15人	—	C	不登校生徒(欠席日数が30日を超える)数、1年生2名、2年生3名、3年生10名 不登校には様々な要因が絡み合っている。担任が家庭訪問や電話連絡を行い、学校との関係を保つように取り組んでいる。SSWや子ども相談室、廿日市市子育て応援室などと連携を図って情報共有を行っている。	
学保校護者づくり・地域から信頼される	生徒の学校満足度の向上	○自己肯定感・自己有用感の高揚 ○提出物の提出や配布物の受け渡しの徹底 ○「みそあじ」の徹底 ○学校行事や生徒会活動の活性化 ○教室の環境整備 ○迅速で丁寧な保護者連携 ○働き方改革(時間外勤務の削減)	○学校評価に係る生徒アンケート項目〔7月・2月実施〕「佐伯中学校の学校生活に満足している」に対する肯定的回答の割合	A…80％以上 B…70％以上 C…60％以上 D…60％未満	教頭	A 91.7%	1年93.8％、2年88.1％、3年93.6％。学校生活での悩みに対して寄り添いながら、自分の力で解決していけるよう支援を継続していく。	88.0%	110%	A	肯定的回答は2年88.9％、3年93.8％と堅調だが、1年は75％(18.8％減)と急落した。否定的な回答ほど理由の記述がないため、潜在的な不満や悩みが見えにくい。積極的な声掛けや対話を通じ、生徒が思いを出しやすい関係構築を徹底する。	
	保護者の学校満足度の向上		○学校評価に係る保護者アンケート項目〔7月・2月実施〕「佐伯中学校の教育活動に満足している」に対する肯定的回答の割合	A…80％以上 B…70％以上 C…60％以上 D…60％未満	教頭	A 89.9%	肯定的な意見として、「少人数でも生徒が楽しく取り組めるよう行事を工夫している」「講師を招いての講演で良い刺激を受けている」などがある。一方否定的なものとして校則や生徒指導の対応への意見が見られた。	94.1%	118%	A	通信等を活用した積極的な情報発信と、日頃の緊密な連携を継続する。あわせて、生徒指導事例の発生時には、迅速かつ誠実な保護者対応を徹底し、組織的な解決を図る。	
	時間外勤務の削減 《市教委の重点施策に基づく重点目標》		○時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員を0人とする。	A…0人 B…1～6人 C…7～9人 D…10人以上	教頭	C 7人	4月11名、5月9名、6月8名、7月8名、8月0名。 教員2名減により、昨年度より授業の持ち時間数や役割が増えている。研修で出された業務改善のアイデアを実現していく。	5人	—	B	9月5名、10月6名、11月3名、12月1名、1月2名。授業・教材研究・進路・行事・部活動等の業務が重複し、校内調整のみでは業務過多の解消に至っていない。教職員の負担軽減に向けた抜本的な見直しが継続的な課題である。	